

Vol. 809

富山経協



ポインセチア (解説・18ページ)

CONTENTS

- 2 TOP INTERVIEW
丸八 大崎浩司社長
- 4 東部地区会員懇談会、長野経協との役員協議会
- 5 「くろよんスピリット」(講演要旨)
- 6 業務日誌
- 7 Keikyo行事レポート
- 9 参加者NOTES
- 14 会員の動き
- 19 景況指標
- 20 おしらせ・事業予定

2013

12

地域の一番を目指し 暮らしの総合提案

株式会社 丸八
代表取締役社長

大崎 浩司 氏



来年で創業60年。4代目社長として、新川地域のガス供給を中心に、建材販売や宅配水サービスも手がけ多角経営されています。

外から見た当社のイメージは「ガス屋さん」、「建材屋さん」といったところでしょう。

私は創業者の直系ではないので跡取りとは思わず、起業家を目指して学生時代は手に職をつけようとして配管工のアルバイトをしていま

した。その延長で就職しましたが、祖父の具合が悪くなり帰ってきました。結果的に社長になりましたが、起業家とは違う「今あるものを守る」ことの大変さを実感しています。起業した友人も何人かいますが、彼らに負けにくいくらい知恵を絞っていかないといけません。

沿革を教えてください。

創業者の大崎利男は父(大崎利明

会長)の叔父にあたり、浜岡商店さんのセメント事業をのれん分けして頂いた様な形で丸八がスタートしました。普及し始めたばかりのプロパンガスに着目し、取り扱いを開始。また、地元の左官屋さんの要望を受け、湿式建材(壁材)を販売するようになりました。左官工事の職人さんらの「友の会」を作ってまとめる一方、建築様式の変化に伴い、取り扱う建材が多様化し、材料を売るだけでなく内装工事も、設計事務所や建設会社等への設計折込PR活動を行うことによって材工受注できるスタイルになりました。

また、魚津の実績があったからでしょう、砺波からオートガススタンドの引き合いがあり、石川県の団地造成にも声をかけてもらい、事業を拡大してきました。

現在、売上げの約55%がガスで、建材や住宅設備の販売が約30%を占めています。

—エネルギー事業で太陽光も—
約2万軒にプロパンガスを供給されています。

関連会社にLPガス販売の桜井合同瓦斯(黒部市、1969年5社合併)と、東都ガステック(魚津市、1988年12社合併)があります。どちらも弊社が中心になって設立した会社ですが、特徴的なのは元売りの系列を超えた水平合併だったということです。

東都ガステックは約7,000軒の顧客でスタートしていますが、そのうち半数以上が丸八の顧客でした。当時、自社の直接取り引きのお客さままで手放すとことに社内でも反論がありましたが、利益が減ってでも「地域で存在感のある会社でなくてはならない」というのが創業者の考えでした。

プロパンガスという重量物を運び、アフターサービスを行っていく上で、地域のシェアは事業の効率化だけでなく、その存在感はお客様からの信頼に繋がり、ガス機器の保守・修理、リフォーム工事といったガス販売以外の収益に大きく表れてきます。どの地域、どの事業でも「何でもいいから、地域一番店になろう、難しかったら一番を探そう」と言っています。**ガス屋さんですが、電気設備や太陽光発電も扱ってられます。**

2003年、オール電化住宅が急速に広まる中、私は設備課長になりました。当時、設備課はエネルギー事業部の中にあり、主力のガス機器が全く売れず、関連工事の注文も激減しました。オール電化のせいだと思っていましたが、工務店を回ってみると、他にも理由があったのです。「オール電化仕様でキッチン回りの工事をお願いしているのに、丸八に頼むとガスにしてくれと言われる」と敬遠されていたのです。

役員にお願いして電気機器の取り扱いもできるようにし、若いスタッフを集めて、新しい設備部門をスタートさせました。ライバル製品の欠点を言うのではなく、お客様のための提案ができるようになり、設備工事の売上は2年で2.5倍になりました。

弊社はもともとガス屋ですが、工務店さんなどと一緒に開催する

展示会には2年前から北陸電力さんにも出展してもらい、最近はガス機器と電気機器を並べて展示しています。当初はどうなるかと思いましたが、何より見に来られるお客様のためになる。出展者同士もライバルなのに、隣にいと意外と仲良くやっています。日本人って素晴らしいですね。

—社員にも地域にも密着—

社内をとりまとめる上で心がけていращやることは。

社長席は2階にあるのですが、私は社内にいる時は7割方は1階の営業フロアにいます。ある人から「会社が良くなるのも悪くなるのも社長の責任」と教えられました。社員からうるさがられますが、とにかく思ったことを伝えます。

特に朝は全社員と顔を合わせる一番の機会。出勤してくる社員と挨拶を交わせば、その時に調子がいいかどうか大体分かります。

冬の降雪時は5時半頃から除雪をしています。社員に強制はしていないものの、早く出てきて手伝ってくれるようになり、除雪時間が1時間は早まりました。社員意識が変わったことが嬉しいです。

もう一つ、社員と接する上で心がけていることは、自分の思いをはっきり伝えることです。特に人事異動の際には、必ず面談をして求める役割、仕事を説明します。よく「課長になったら部長並みの

仕事をするものだ」などと言う人がいますが、そうではない。その人に期待している課長像をはっきりと伝えるべきだと思っています。

人は他人から見られていることで頑張れる存在です。以前、リフォーム専門の会社を分社しましたが、うまくいきませんでした。理由は色々あったのですが、本社とのコミュニケーションも足りなかったのだらうと思います。

今後の目標は。

毎朝全員で「丸八の信条」6つを日替わりで唱和していますが、創業者が掲げた「当社の任務が真に社会的要求において果たされるなら、当社は生産者、消費者の歓びによって自ずから発展する」という言葉が最近特に身にしみます。創業以来、地域を大切にしてきたことはこれからも変わりませんが、ますます地域で根を張って一番の分野を増やし、頼られる存在にしたいと考えています。

景観施設や公園施設の仕事もやっており、桃山運動公園の遊具や魚津駅前、入善駅前の舗道整備も手がけました。地域に認知されると同時に、社員も「自分がやった」と誇りに思える会社でありたいと思っています。

会社概要

株式会社 丸八

創 業：1954(昭和29)年10月

所 在 地：魚津市北鬼江364

資 本 金：2,500万円

事業内容：LPガス事業、住宅設備販売、
建材販売、宅配水サービス

従業員数：84名

売上高：45億4,600万円(2013年9月期)

事業所：富山支店、朝日営業所、砺波営業所、金沢営業所

関連会社：桜井合同瓦斯(株)、丸八配送(株)、丸八金沢、丸八ガスサービス、大道建設工業(株)、丸八東都ガステック、(有)アップルサポート

U R L：http://www.maruhachi-co.jp/

略 歴

1969(昭和44)年8月生まれ。青森大経営学部卒後、(有)新陽住設勤務を経てUターンし、1994年(株)丸八へ入社。朝日、金沢各営業所長、設備課長、取締役兼エネルギー関連事業部次長を歴任し、2007年専務、2009年から現職。



東 部 地 区 会 員 懇 談 会



講演会



米屋東部地区担当副会長の開会挨拶



石井知事からご挨拶



乾杯発声の稲垣会長



佐々副会長の中締め

11月15日(金)、ホテルグランミラージュで、会員企業から100名が参加して東部地区会員懇談会を開催した。

今年は黒部ダム建設50周年の節目の年にあたることから、会員企業代表でもある、関西電力(株)の吉津洋一北陸支社長から、「くろよんスピリット」～人・使命・情熱～と題して講演いただいた。建設の歴史についてそのスケールの大きさと、先達の偉業に参加者一同感動した。

(講演要旨は5頁掲載)

懇親会では、稲垣会長から新会員の紹介があり、米屋東部地区担当副会長が開会の挨拶をし、石井知事から来賓の挨拶、稲垣会長が乾杯の音頭をとり、和やかな懇親を行った。佐々副会長が中締めの挨拶をし、散会した。



正副会長会議

東部地区会員懇談会に先立ち、同ホテルで、稲垣会長はじめ副会長4名が出席して会長・副会長会議を開催した。

事務局から2013年度上期の事業実績と1月6日(月)開催予定の新春互礼会について報告があり、次に11月20日開催する長野経協との初めての役員協議会、次年度総会を2014年5月26日に開催することなどを確認した。

長野県経営者協会との役員協議会

長野県経営者協会と富山県経営者協会との役員協議会を11月20日(水)、ホテル国際21(長野市)で開催した。富山経協からは、稲垣会長はじめ7名が、長野経協からは山浦会長はじめ13名が出席した。

稲垣会長からの「両県は北陸新幹線で結ばれると一体的な地域になる。企業間の協業を通じて共に発展する機会が生まれる」との挨拶に対し、山浦会長より「交流を深めて経済の発展に寄与したい。特に観光はうまく協力すればいい旅行商品も生まれる」との挨拶があった。

その後、両経協の方針と活動を紹介した後、今後の連携等について活発な意見交換を行い、来年は富山県で開催することを決め、閉会した。



「くろよんスピリット」

～ 人・使命・情熱 ～

関西電力株式会社 北陸支社長 吉津 洋一 氏



黒部ダム・黒部川第四発電所 概要

「くろよん」黒部川第四発電所は、昭和30年代初頭、電力不足が大きな社会問題となった戦後復興期に、弊社初代社長の太田垣士郎が社運をかけて、黒部の奥山に大きな発電所（ダム）を造ることを決断した。7年の歳月と延べ1,000万人の労働力、総工費513億円をかけ、昭和38年6月5日に竣工。今年、50周年を迎えた。

黒部ダムの高さは186mで今でも日本一。総貯水量約2億tで東京ドーム約160個分。使用水量は72t/秒、有効落差545.5m、発電出力33万5,000kW、これは日本で4番目である。

くろよん建設の歴史

立山連峰、後立山連峰の山奥にどうやって資材を運び込むかが最大の難関であった。太田垣は「7割成功の見通しがあったら、勇断をもって実行する。それでなければ本当の事業はやれるものじゃない。いざという時に水力が火力を補う時代になる」と決断した。

ダム建設地へは3ルートある。「黒部ルート」は、日電歩道という断崖絶壁に釣り棧橋をかけて歩くしかない。「立山ルート」はボッカさんを総動員して立山を越える。そして、最短の「大町ルート」にトンネルを掘り、資材を運び込んで建設することになった。

そこで遭遇した破砕帯は、映画「黒部の太陽」でもお馴染みで、わずか80mを突破するのに7カ月もかかった。この時、太田垣が現場を視察し激励した。現場班長だ

った笹島信義氏は当時を振り返り「危険だから入らないでと言ったら、作業員が働いているのに、命令した僕が入らないでどうするんだと言われ、作業員共々感激した」と語られる。経営者の一言が、関係者みんなの心に響き、力を結集することに繋がった。この後、太田垣は大阪の社員に「エンピツ1本、紙1枚を節約しよう。それがくろよんに手を貸すことになる」と声をかけ、心をつにじた。

大町トンネルが開通し、ダムと発電所の建設が本格的にスタートした。計画の10カ月遅れになっていたため、間組の沼田充弘氏はダム建設で、大量のダイナマイトで一気に山肌を削ぎ取る大発破を考えた。それが実にうまくいった。

いよいよ昭和34年9月にコンクリートの初打設を行った矢先、3カ月後の12月にフランスでダムが崩壊した。黒部ダム建設費の約3分の1は世界銀行からの融資だったため、高さを低くしなさいと勧告され、我が社は岩盤試験の結果をもって世銀の会議で訴え、14回の設計変更の末、186mを死守した。結果、ドーム型アーチダムという3タイプのダム構造を組み込んだコンバインド型となり、それが自然とマッチして、美しい景観となっている。

くろよんから得られるもの

太田垣社長は、「秘境での建設を決断した信念と先見性」「プロジェクトを完遂するという揺るぎない姿勢と人心をつにする求心力」「現場作業員への信頼と動機

付け」が優れていた。笹島班長は「トンネル掘りとしてのプライドと使命感」「作業員への信頼と責任感」「その家族への配慮」があり、部下を使うためには「怒鳴っても駄目、甘やかしても駄目、“惚れさせること”」が信条とのこと。沼田氏は「ダム屋の誇りと工程短縮の使命感」「経験と勘に裏付けられた大胆な発想力」「心をつににして支え合う連帯感と感謝の気持ち」があふれた方だった。

このように、「くろよんは、事業者、元請、下請が一体となって、“信用と信頼の輪”で結ばれ、これに関電社員はもとより、“地域の皆さまのご支援・ご協力”があつて、はじめて成し得た事業」だった。「くろよんスピリット」を、現在に分かりやすく表現してみると、まずは「大義・夢」。将来に向けた夢があり、自分の仕事はそれに関連しているという点。大きな目標の実現に向け、各人が仕事に誇りとやりがいを見出し、仲間と団結する。みんな同じ方向を向いていたら、困難も乗り越えられて達成する。今、この大義や夢をどのように与えられるのか、これが我々世代の役割であると思っている。

現在、電力業界は非常に厳しい状況だが、今の我々の“くろよんスピリット”を発現する時である。

今年の6月5日、慰霊碑の前で合同慰霊祭を行った。先人の偉業によって我々が頂いた恩恵、地域社会の皆様から頂いた恩恵を今後もしっかりと共に働くことによってお返ししていくと誓った。

業 務 日 誌

2013年 10月7日～12月4日

	事 業 名	委員会名	開 催 日	場 所	参加者数
会 議	IT・インフラ委員会「定例委員会」	IT・インフラ	10月24日(木)	富山経協・研修室	15名
	教育委員会「研究部会」	教 育	10月28日(月)	北陸電力研修センター	3名
	環境委員会「情報交換会」	環 境	10月29日(火)	北陸リサイクルセンター	9名
	会長・副会長会議		11月15日(金)	ホテルグランミラージュ	6名
	東部地区会員懇談会		11月15日(金)	ホテルグランミラージュ	107名
	教育委員会「研究部会」	教 育	11月18日(月)	富山経協・研修室	3名
	教育委員会「定例委員会」	教 育	11月18日(月)	富山経協・研修室	13名
	労働法関連法制研究部会	人事・労務政策	11月19日(火)	富山経協・研修室	13名
	長野経協と富山経協の合同役員協議会		11月20日(水)	長野県・ホテル国際21	16名
	会員交流ボウリング大会	総務交流	11月21日(木)	富山地鉄ゴールデンボウル	115名
	環境委員会「情報交換会」	環 境	11月27日(水)	富山経協・研修室	7名
	人事・労務政策委員会「幹事会」	人事・労務政策	11月29日(金)	富山経協・研修室	8名
	経営企画委員会「定例委員会」	経営企画	12月 3日(火)	富山経協・研修室	12名
	講 演 ・ 見 学 会	県外企業見学会	品質管理	10月7～8日(月～火)	パナソニックエコソリューションズ他
企業理念見学会		経営企画・総務交流	10月18日(金)	北陸コカ・コーラ砺波工場	20名
環境保全活動		環 境	10月19日(土)	旧オムサンタの森スキー場跡地	16名
県外企業見学会		環 境	11月14日(木)	トーケン、コマツ栗津工場	13名
ものづくり品質管理セミナー		品質管理	11月19日(火)	高志会館	78名
県外企業見学会		総務交流・経営企画	11月19～20日(火～水)	オリオン機械(株)、伊那食品工業(株)	6名
講 座 ・ セ ミ ナ ー	第1回 係長・主任実践コース	教 育	10月8・9日(火・水)	富山商工会議所ビル	52名
	若手社員活性化コース	教 育	10月11日(金)	富山商工会議所ビル	48名
	品質工学実践講座	品質管理	10月11日(金)	富山経協・研修室	9名
	実践しながら学ぶ統計的手法活用講座	品質管理	10月18日(金)	富山経協・研修室	19名
	管理職マネジメント研修	教 育	10月18日(金) 11月20日(水)	富山県農業総合研修所	28名
	事務・間接部門の効果的業務改善の進め方コース	教 育	10月22日(火)	富山商工会議所ビル	54名
	ヒューマンエラー対策講座 応用編	品質管理	10月24日(木)	トナミ運輸年金会館	32名
	ISO9001内部監査員養成コース	環 境	11月6・7日(水・木)	富山県問屋センター流通会館	64名
	管理職基礎コース	教 育	11月8～9日(金～土)	インテック大山研修センター	27名
	コスト改善力実践コース	教 育	11月14日(木)	富山商工会議所ビル	41名
	労働法実務研修会(第3回)	人事・労務政策	11月19日(火)	富山商工会議所ビル	41名
	経理・財務の基礎コース	教 育	11月26日(火)	富山商工会議所ビル	32名
	「5S+目で見える管理」活動実践コース	教 育	12月 4日(水)	富山商工会議所ビル	48名

経営企画委員会

■2013年度第3回委員会

12月3日(火)、守山委員長はじめ委員12名が出席して富山経協・会議室において開催し、2013年度事業の実績と2014年度事業計画について審議を行った。



守山委員長の挨拶に続き、事務局より、2013年度事業実績は、①「企業理念見学会」は、6月19日に13名が参加してユニゾーンさんで、10月18日に20名が参加して北陸コカ・コーラボトリングさんで実施し、報告書を経協ホームページにアップした。②「グローバル人材育成講座 ベトナム編」は、7月24日に県との共催により、11名が参加し実施した。③「県外企業見学

会」は、11月19～20日に6名が参加して長野県の企業を見学した。2014年度事業計画は、①「企業理念見学会」、「グローバル人材育成講座」、「県外企業見学会」を実施する。②新規事業としてISO規定が2015年に改訂されることを受けて「経営層向けのISO改訂セミナー」を企画する。③理事会特命は「長野経協との連携強化」の課題等について取り組む予定であることを報告した。審議を行い、2014年度事業計画は事務局案で進めることを決めた。次回委員会は2014年4月11日に開催する。

■企業理念見学会

10月18日(金)13時から北陸コカ・コーラボトリング(株)砺波工場で、総務交流委員会と共催の「企業理念見学会」を、守山委員長はじめ20名の参加で開催した。

最初に、当協会会長でもある稲垣晴彦社長より「生き活きとした企業を目指して」と題して講演をいただいた。



同社設立の経緯、グループ会社概要の説明の後、社長が手掛けたロジスティクスシステム改革によりカート配送実績が飛躍的に伸びたことや、社員がいきいきとして働ける会社を目指して人事制度の変更、機能別分社化、新入社員宅へ所属長が家庭訪問を行っていること等が紹介された。また、大切に行っている「不易流行」の言葉に沿って、経営理念(リフレッシュメントを通じて社会に大きな価値を提供し続ける)や、エリアマーケティング理念等の説明があった。

講演会終了後、同社の創立50周年を記念してつくられた公園「さわやかパーク」および製造棟内を見学。参加者による活発な意見交換会も行われ、17時に閉会した。

総務交流委員会

■会員交流ボウリング大会

11月21日(木)、富山地铁ゴールデンボウルにおいて開催した。平日の夕刻時間にもかかわらず、29チーム115名と過去最高の参加者を迎えることができた。

燐化学工業(株)の安田社長による始球式の後、一斉に競技が開始され、各チーム和気あいあいとした雰囲気の中で、熱戦が繰り広げられた。ストライクやスペアの際の歓声がホールに響き渡り、隣のレーンのチームとの交流も深め合っているようであった。

ゲームは1チーム4人の2ゲー

ム合計スコアで競われたが、女性参加者には1ゲーム20ピンのハンデを加える従来のルールを適用した。

団体の部はアイシン軽金属(株)チームが合計スコア1,244で優勝した。今回から個人表彰も行った。

<上位成績>

(団体の部)	会社名	合計スコア
優勝	アイシン軽金属(株)	1,244
準優勝	(株)リッチェルA	1,178
3位	北陸電気工業(株)	1,165
(個人の部)	氏名	合計スコア
優勝	竹内勝己(北陸電気保安協会)	349
準優勝	栗原一男(富山電気ビルディング)	348
3位	北川裕子(北陸電気工業)	336



人事・労務政策委員会

■幹事会

11月29日(金)、綿貫勝介委員長ほか副委員長・幹事8名が出席して、富山経協・会議室で開催した。



今年度のこれまでの事業実績が報告された後、12月の定例委員会に向けて「2014年度事業計画」の骨子について検討。①活動方針については来年度も継続する。②ダイバーシティマネジメントについて、セミナーなどの開催を検討する。③障害者雇用対策の中でメンタルヘルスにかかわる問題も取り

扱うこととし、セルフケア（ストレスコントロール）促進セミナーなどの開催を検討する。④人事・処遇・採用に関する現実的な課題について積極的な情報交換を行うことなどを決定した。

今年度の今後の活動について、1月に高等支援学校の訪問、2月17日に第4回の定例委員会を開催することを確認した。

■労働法実務研修会（第3回）

11月19日(火)、「コンプライアンス重視の経営と内部通報制度・懲戒処分の留意点」をテーマに、41名が参加して富山商工会議所ビルで開催した。

講師の第一共同法律事務所の伊藤昌毅弁護士は、コンプライアンスは一般的に「法令遵守」と和訳されてきたが、企業には法令遵守はもとより価値観や倫理観といっ



た社会的規範の遵守が求められており、社会から非難・批判の対象となりうる不祥事などのリスクをコントロールし、有事には適切に対処する体制の整備が必要であるとしたうえで、コンプライアンス体制や内部通報制度を有効に運用するためのポイントについて解説した。また、不祥事を発生させた従業員に対して懲戒処分を行う際の基本的な考え方や具体的な手続き、就業規則を作成する際に注意すべきポイントなどについて、事例を交えながら解説した。

教育委員会

■定例委員会

11月18日(月)、金岡委員長はじめ15名が出席して富山経協・研修室で開催した。

金岡委員長は、東京オリンピック開催決定やアベノミクスで盛り上がっているが、日本の将来はまだ予断を許さない状況にある。各企業がゴーイング・コンサーン（継続企業の前提）の視点で若者を育て、頑張っていく必要があると挨拶した。

次に、2013年度委員会活動の経過報告が行われた。講座・セミナーについては、定員と参加者数の差、参加会社数、各講座のアンケート結果を確認した。研究部会活動は、「高齢化社会に向けた職務能力開発の課題」をテーマに、各



社が抱える課題と取り組みについて情報交換を行い、60歳に達する以前からの能力開発の在り方を中心に議論を進めている。今後、教育・研修の視点から取り組み事例や参考データを取りまとめる。

2014年度事業計画について審議し、12月20日開催の定例委員会で決定することとした。

■第1回係長・主任実践コース

10月8・9日(火・水)、52名が参加して、富山商工会議所ビルで開催した。

講師の佐藤充昶（たかてる）ヒューマン・クリエイト代表より、今日の企業環境変化と係長主任の役割、仕事の管理と問題解決、人間行動の理解と部下育成、リーダーシップと職場の活性化などについて講義が行われ、参加者同士の活発な意見交換を通して理解を深



めた。この中で、①目標を達成するためには、資源を効果的・効率的に活用する、②企業利益を生むためには、顧客満足やサービスの向上、品質管理を徹底することで顧客がついてくる、③問題・課題解決や改善活動が活発に行われる職場の風土づくりが一層重要である、④人の扱い方については、外部要因と個人の価値観・資質・性格・過去の経験などの要因が複雑にからみ合うので、個別の対応が必要である、⑤積極的傾聴が大切で、部下指導・コーチングの際には、部下自身の考える力を養うことが必要であると話した。

（「参加者NOTES」9頁掲載）

■若手社員活性化コース

10月11日（金）、46名が参加して、富山商工会議所ビルで開催した。



講師の松田勝明マネジメント・アドバイザーは、企業環境が激しく変化する中、イノベーションを起こすのは若手社員の役割であり、その自覚と覚悟を持ってもらいたいとした。さらに、これからの仕事にはグローバルな思考や創造性が求められるとした上で、顧客の視点で考える創造型人間になることが重要であり、新たな仕事を作り出すために積極的にチャレンジして欲しいと強調した。

また、「会社が今以上に環境変化に対応して発展成長するには、

どんな努力をすべきか」「お客様からよい評価を得られるようにするにはどんな努力をすべきか」をテーマにグループディスカッションを行った。

（「参加者NOTES」11頁掲載）

■「事務・間接（スタッフ）部門の効果的な業務改善の進め方」セミナー

10月22日（火）、54名が参加して、富山商工会議所ビルで開催した。

（一社）中部産業連盟 渡辺季幸主任コンサルタントは、事務・間接（スタッフ）部門の役割と業務の特性を再認識し、ものづくりの改善手法を応用することによって



参加者NOTES

教育委員会

「係長・主任実践コース」を受講して

株式会社 タカギセイコー
開発技術部 主任

熊澤 周士



本講義では、経営学的観点から見た企業を取り巻く環境の変化や教育の必要性、市場のマーケティング（分析）を怠らず、自らもイノベーション（変革）しなければならぬ事を強調された。それを絡めて係長・主任の成すべき事の説明をされたが、この分析・変革は企業や個人の視点、対象が違わず、同様であると感じた。ただ指示をして仕事を任せるのではなく、相手や状態を分析して、適切なサ

ポートをして成功させ、最後には褒める。安全第一の精神と同じように、一見遠回りに見えるが、人を大切にする事が結果として利益に返ってくる事と同じであると思う。

幾つかの事例を通してグループディスカッションを行うと、人によって目の付け所や価値観が異なる事が実感できる。従業員である以上トップ方針には従うものだが、依存してはイノベーションが

起き難く、更には将来を担う後継者が育ちにくくなってしまふ。自分達の考えを職場内で活発に議論し、ボトムアップできる職場を作る事ができれば、個人の足し算以上の力を企業は発揮できるようになる。議論をする相手を知るには話を聴く力が重要であり、相手の意見を分析して読み取り、否定せず取り込んで、自分の意見を提示する事で忌憚のない議論ができるようになる。

講義内でも紹介された有名な「やってみせ、言って聞かせて、させてみせ、ほめてやらねば、人は動かじ」には続きがあり、まさにこれらの事を述べているので、講義内容共々常に意識し、実行できるような心がけたい。

事務・技術系業務の効率化・仕事の質の向上を実現するため、業務プロセス改善の着眼点や適用しやすい改善手法、タイムマネジメント、VMの基本的な考え方について具体的事例を交えて解説した。また、効果的な改善の進め方を検討するためグループ演習を行い、意見交換を通して理解を深めた。

■管理職基礎コース

11月8日～9日(金～土)、27名が参加して、インテック大山研修センターにて1泊2日で開催した。



講師の市川 登(公財)日本生産性本部認定経営コンサルタントが、経営環境の変化の潮流と経済・社会構造の変革を確認した上で、今日の管理職に求められる役割・能力について解説した。グループディスカッションでは、計画・実施・統制など管理者の日常の役割行動について検討し、発表した。また、懇親会では、管理者間の異業種交流を活発に行った。

部下の育成についてはVTRのケースを用いて部下のコーチング面接の演習を行ったほか、企業倫理や労務管理の重要性についても学んだ。最後に、研修で自覚したポイント、現状・自己の事実分析を元に、業務にどう活かすかについて「自己啓発シート」を作成して終了した。

(「参加者NOTES」11頁掲載)

■コスト改善力実践コース

11月14日(木)、41名が参加して、富山商工会議所ビルで開催した。



講師の(株)MEマネジメントサービス小川正樹代表取締役は、グローバル展開が進む中、国内の製造部門のコスト低減は最重要課題になってきているが、再度製造部門を点検すると、コストダウンの可能性は十分残されているのが現状であるとして、製造、資材・購買部門のコストダウンに焦点を合わせ、必要な原価の基礎知識、製造現場で発生しているムダの見つけ方の習得や、材料費(歩留向上、不良・品質コスト低減)、労務費(工数・設備効率向上)、製造経費(変動経費低減、固定経費低減、負荷の平準化)のコストダウン実践や管理方法について、事例や演習を交えて詳しく解説した。

■経理・財務の基礎コース

11月26日(火)、33名が参加して、富山商工会議所ビルで開催した。

この講座は、YKKビジネスサポート(株)経営管理グループ長の渡邊智博氏を講師に、利益や経費の管理という財務会計と、原価計算や原価管理といった管理会計の基本的な考え方を確認した上で、事業管理・工程管理に会計を活用する方法を理解し、会社・職場での業務改善を推進することを目的として、YKKグループ内で実施の研修をベースに、会員企業向けに具体的で実務に役立つ内容にアレ



ンジしていただき、開催している。

今回は、原価の計算や予算の設定などについて演習を通じて理解を深めたほか、内部振替価格の設定など事業部制における会計処理について、事例を交えて解説いただいた。さらに、海外現地法人におけるマネジメントの課題についても紹介があった。

■「5S+目で見える管理」活動実践コース

12月4日(水)、48名が参加して、富山商工会議所ビルで開催した。



(一社)中部産業連盟 中井芳美 上席主任コンサルタントは、5S(整理・整頓・清掃・清潔・躰)は、ただ単に職場をきれいにするということではなく、よい品質を作り出し、ムダをなくす職場の基本であり、品質・納期・コスト・安全・環境・士気のすべてに効果がある。また、「目で見える管理」とは、人間は90%の情報を視覚から得ているので、「現場の状態が目で見ても正常か異常かがすぐ分かり、必要な手がすぐに打てる状態にすること」であるとし、管理の進め方について、演習や現場での実践事例を交えて詳しく解説した。



参加者NOTES

教育委員会

「若手社員活性化コース」を受講して

富山電気ビルディング株式会社
市販機材グループ

山内 拓弥



松田勝明先生の講義を受講して印象に残った言葉があります。「若い時の苦労は買ってでもしろ」と、「当たり前の事を地道に愚直にやってみる」です。

前者は、企業環境の変化が激しいこの時代に取り残されないためには、その変化に前向きに積極的に柔軟に何事も対応しなければならず、仕事を好き嫌いで選んでいくと何も生産することはできないという事を学びました。若いうちにどんな事でも積極的にやってみる事によって、新たな発見・創造に繋がり、いつかは社会に貢献する事ができると思えました。まず

第一に、現場に飛び込んで常にアンテナを張り巡らせ、積極的に体を動かすビジネスマンを目指して頑張っていきたいと思えます。

後者は、より効率的に仕事をこなすためには事前の段取りが重要であると教わりました。また、ミス未然に防ぐためには「指差し声だし呼称」が大事であると教えていただきました。頭でいくらわかってやっても声を出して確認することにより正確性を高められると教わりました。このような簡単な作業も地道に継続してやっていくことができれば、それは必ず自分の力になると思えます。ど

んな苦しい状況であろうと人より一歩前進し、何事も自ら切り開いていくビジネスマンになりたいです。

また、講義ではグループディスカッションにも参加させていただき、私たちの班では「お客様により満足していただくためにはどのような努力をすればよいか」について討議しました。

お客様に満足していただくためには綿密なコミュニケーションが必要であり、お客様が望んでいらっしゃる事を素早く探る必要があると考えました。様々な職種はあれど、やはり最後はお客様への安心感に尽きるのではないかと思います。

今回の講義を通して、入社から今までの仕事のやり方を見つめ直すとても良い機会となりました。これからは更に「地道に愚直に」の精神で何事にも挑戦していきたいです。



参加者NOTES

教育委員会

「管理職基礎コース」を受講して

燐化学工業株式会社 技術開発部
技術グループ グループ長

高長 学



今回受講した「管理職基礎コース」は、課長クラスの管理者を対象とした一泊二日の研修でした。私自身は、今年6月に管理職になり、なかなか満足いく成果を出せず難しさを感じていたので、丁度良い時期に本研修を受講できたと感じています。

研修は、「管理職の役割」や「管理職の心構え」を中心に講師の市川先生が話され、時折グループディスカッションを交えた内容でした。先生は冒頭に、「『こういう管理職になりなさい』という

話はしませんし、その人に合ったやり方があるので出来ません。しかし、この研修で約300のヒントを提供します。これを、皆さんが感じて生かして欲しい」と言われ、過去の研修や色々な仲間の話、大企業の面白い事例などを交え、分かり易く話をされました。繰り返し言われていたことの一つに、「読書を1日15分以上する」があり、感性を養って視野を広げるだけで無く、雑学を身に付け話題豊富な人間になることが重要であるということでした。個人的には苦

手な読書なので難しいですが、自分を変える為にも、いつか実践したいと思えます。研修を終えた時には、重要なヒントを多く得られたと感じています。

そして、研修が一泊ということもあり、参加されていた他の方とお酒を飲みながら、異業種の管理事例や実情など、色々な話が出来る時間も有りました。海外を飛び回るような多忙を極める方の話には驚かされましたが、励みにもなり有益な時間を過ごせたと思えます。

最後に、今回のような研修は、職制の立場ごとに役割を学べる良い機会なので、今後も是非続けて頂き、より良いものに発展させて頂きたいと思えます。今後も、機会があれば他の研修コースなどに参加してみたいと思えます。どうも有難うございました。

品質管理委員会

■県外企業見学研修会

10月7～8日(月～火)の2日間の日程で開催し、17名が参加した。

1日目は、自然環境に恵まれた拠点に位置する『パナソニック(株)エコソリューションズ社新潟工場』を訪問した。施設用・防災用照明器具、車載照明用部品を生産し、世界のあかり文化向上の実現を目指し、グローバルに事業を拡大させている。トヨタ生産方式を導入し「必要な時」に「必要なだけ」届けるため、全員参加の「仕事ダイエット」に取り組んでいるとのこと。社内では、当番制でリーダーを決め、月1回挨拶運動を行っており、すれ違う時はもちろん、

遠く離れた所からでも、従業員の方の挨拶があり、マナーに対する意識の高さを見せていただいた。

2日目の午前中は、「品質。鮮度第一主義」をモットーに米菓の製造並びに販売を行っている『岩塚製菓(株)』を見学した。安全・安心へのこだわりから新潟県産を中心に国産米を100%使用し、米の風味を生かすため、加工する直前に精米するなど、鮮度を重視した生産に取り組んでいる。食品の安全への体質強化として、ISO22000の認証を取得。NPS研究会に入会し、独自のIPS活動を展開しているとのこと。従業員の食の安全へのこだわりを強く感じた。

午後からは、豊かな自然環境を



生かしながら醸造し続けている『朝日酒造(株)』を見学した。最新設備が導入されても「酒造りは米作りから」を合言葉に、安全・安心・品質の要求を常に追い求め、変えてはならない杜氏の長年の「経験」と「勘」の数値を継承していくために、社員一丸となっていると、いろいろな努力をしているとのこと。自信をもってお客様に提供す

参加者NOTES

品質管理委員会

「県外企業見学研修会」に参加して

北陸電気工業株式会社
コアテクノロジー開発本部

中田 智康



県外企業見学研修会には、ものづくり活動を行なう上で、他社の先端的・模範的な活動を、直接聞いて、見て、体感し、会員相互の啓発の場とするためという目的があり、これを踏まえて参加しました。

「パナソニック(株)エコソリューションズ社 新潟工場」様は、人と人、人と空間、人と環境を結ぶかけがえのない「あかり文化」向上に貢献し、世界のお客様・お客様に最大の満足を提供する事により、「世界のパナソニック照明」の実現を目指しており、施設用・防災用照明器具、車載照明用部品、電子デバイスの中の製造ラインを数カ所見学させていただきました。その中では、受注連動型生産方式を用いて無駄なものを作らないと

いうことや見える化、カードを使った管理の様子を見学することができ、様々な工夫を行っていることがわかりました。また従業員の方とすれ違うときにあいさつがあり、躰に対する意識の高さを感じることができました。QCサークル活動は製造、間接、顧客接点部門それぞれにあり、活動の評価は異なっていること、請負社員の方は各々でグループ発表等を行っており、情報提供は随時行っているが各自で工夫した活動ということでした。各々の活動に対して交流を行うことでより切磋できる環境にあるのだと感じました。

「岩塚製菓(株)」様は、「品質・鮮度第一主義」の米菓づくりに取り組んでおり、これまでのNPS

研究からIPSという自分たちの規格にしており、そこに至るまでの努力があったことを知ることができました。また食品での品質管理ということで賞味期限に対する考え方や、新製品を生み出すためのミーティングといった現在の業務では考えることが無い内容に触れることができ勉強になりました。

「朝日酒造(株)」様では、近代的な建物で湿度の管理から機械的に行われており厳しい管理の必要性を感じました。ただし、品質を維持していくために機械で管理できる部分だけでなく、最終的に人の力、経験が必要な部分があること、それを伝えていくために人材育成が大切であることがわかりました。

今回見学および研修会に参加させていただいて、現場の様子また他の業種の品質管理に対する考え方や取り組みについて体感できました。また他の参加者の方のお話を聞くことができ今後について考えていく良い経験となりました。

るために、お酒の品質・味を変えてはならないというこだわりを感じた。

参加者は2日間の行程を通して、実際に目で見て体感することができた。また、参加者間での情報交換も活発に行われ、有意義な見学研修会であった。

(「参加者NOTES」12頁掲載)

■品質工学実践講座

4月19日(金)から富山経協・会議室において開催してきた「第19回品質工学実践講座」は、10月11日(金)に10日間の全日程を終え、閉講した。

この講座は、矢野宏工学博士(日本規格協会参与)を筆頭とし



た講師陣により、製品設計者や製造技術者が、技術的な最適条件を効率よく求める品質工学(タグチメソッド)の考え方と方法を学ぶものである。また、「品質」と「コスト」の目標を達成するために、少人数方式の個別指導を受け、受講者が抱えている問題、ひいては企業の問題をも徹底的に検討し解決することを目的としている。

10月11日の最終日には、効率化や製品の性能向上に取り組んだ成果発表を行い、9名が修了証を手にした。また、年々受講生のレベルも上がるなか、次の2名が優秀賞を受けた。

- ・石橋孝裕さん(北陸電気工業)
- ・大西正紘さん(東洋ガスメーター)

■品質管理セミナー

「実践しながら学ぶ

統計的手法活用講座」

5月17日から富山経協・研修室において開講した「第57回実践しながら学ぶ統計的手法活用講座」は、10月18日(金)に15日間の全日程を終えて閉講した。

この講座は、企業の体質改善を



参加者NOTES

品質管理委員会



「実践しながら学ぶ統計的手法活用講座」を受講して

アイシン軽金属株式会社
生産技術部 技術開発グループ
山下 博子

今回、本講座を受講することで、統計的手法の基礎を学ぶことが出来ました。

講義では、講師の方が実際に経験してきた事例や感想を交えた話を聞くことで、自分の業務においてより身近なものと感じることができ、理解が深まりました。

研究論文はグループディスカッション形式で行われ、講師の方や他社の方の意見を聞くことで、社内だけでは気づけなかった新しい視点からの見方ができ、統計的手法の活用のバリエーションが広がったと思います。また、受講者の方との交流も深まり、様々な意見交換をする良い機会になりました。

今後は、この半年間で学んだことを十分に生かし、効率の良い・的確な検証をもとに開発業務を行っていききたいと思います。また、今回の講座では、統計的手法の知識だけでなく、“おもしろさ”も教えて頂いたと感じており、更なるレベルアップを目指した品質工学への挑戦、将来的には講師陣への仲間入りができるよう、頑張っていきたいと思います。



コーセル株式会社
P S開発部 P S一課
熊田 泉実

私は開発部に所属しており、新製品の設計、開発に携わっています。量産品の出荷試験条件の設定や得られた結果の解析等を行う中で、必要となる統計的手法に対して理解を深めたいと思い、今回の講座を受けることにしました。

この講座では、品質管理に関する歴史や、統計的手法が確立されるまでの背景から学ぶことができるので、自分が学ぼうとしているものの必要性を確認することが出来ました。

講義では、様々な業種出身の講師の方が経験談を交えながら話を下さるので、統計的手法への理解がより一層深まったと思います。研究論文の作成では、自分が学んだ統計的手法を活用する場としてとても有効でした。また、論文作成のためのカウンセリングでは、自分の疑問点を相談できるのはもちろんの事、他社の方の考え方や問題解決へのアプローチの仕方などを聞くことができ、とても貴重な体験ができました。

この講座で学んだことを生かし、より一層品質の高い製品作りを目指していきたいと思います。

進めるために重要な役割を担うスタッフ・技術者を対象に、問題解決に必要な統計的品質管理（SQC）の手法を学び、自職場での問題の解決を図るべく、その実践的な活用方法を習得することをねらいとしている。上司とキャッチボールのうえ職場の身近な問題をテーマとして選定し、グループ別にカウンセリングを受けながら、品質管理手法を駆使して問題解決に取り組み、その内容を研究論文にまとめて提出することを修了基準の一つとしている。

10月18日の最終日には、先に開催された論文審査会で講師より推薦を受けた優秀論文2件の発表後、受講者19名全員が修了証を手にし



た。また、講座全体を通して総合評価上位の3名が優秀賞を受けた。

〈優秀論文〉

熊田 泉実さん（コーセル）

山下 博子さん（アイシン軽金属）

〈優秀賞〉

熊田 泉実さん（コーセル）

橋本 憲明さん（コーセル）

山下 博子さん（アイシン軽金属）

〈講師派遣等のご協力企業〉

アイシン軽金属(株)、コーセル(株)、(株)タカギセイコー、中越合金鋳工(株)、富山化学工業(株)

（「参加者NOTES」13頁掲載）

■ヒューマンエラー対策講座

〈応用編〉

10月24日(木)、32名が参加してトナミ運輸年金会館において開催した。近年、技術面におけるプロセスの改善が進むにつれて、ヒューマンエラーによる品質トラブルや事故の発生が大きな問題となっており、9月11日・12日に開催した〈実践編〉のフォローアップと



して企画したセミナーである。

「未然防止の考え方と方法論」を中心に、ヒューマンエラーの特性、エラープルーフ化の原理、エラー未然防止のためのチーム活動、エラー未然防止活動の組織的推進について、中央大学理工学部経営システム工学科教授 中條武志氏より指導いただいた。

受講後のアンケートでは、エラープルーフ化の3ステップ（①改善の機会を見つける、②対策案を生成する、③対策案を評価・選定する）を活用して、実践したいとの声が多く聞かれた。

（「参加者NOTES」15頁掲載）

会員の動き

(50音順) (敬称略)

■ 代表者の変更

スタコー株式会社

代表取締役社長 橋本 康 (前:高見 茂)

バルチラジャパン株式会社

代表取締役社長 竹松 修 (前:大西 立)

■ 所在地変更

朝日化工株式会社

〒932-0101小矢部市下後函503番地1号

TEL 0766-61-1105

鹿島建設(株)富山営業所

〒939-8206富山市布瀬町2丁目11番26号

TEL 076-421-5566

■ ご逝去 ご冥福をお祈りいたします。

タカノギケン株式会社

代表取締役社長 高野 啓良氏

Quality 21

代表 植木 悟氏

叙勲ご受章

旭日小綬章

長沼 克博 氏

(富山石油株式会社 代表取締役社長)

旭日双光章

須垣 純夫 氏

(富山スガキ株式会社 代表取締役社長)



参加者NOTES

品質管理委員会

「ヒューマンエラー対策講座（応用編）」を受講して

株式会社 ピア
富山豊田店 店長

松原 隆行



今回、「ヒューマンエラー講座」を受講させて頂いて、私が今まで取り組んできた取組み方の甘さを認識させられ、今後の「ヒューマンエラー」に対する取組み方を大きく変えさせられました。その中でも大きく考え方を変えさせられたのが、「人間のミス原因のメカニズム」「ミスの原因をロジックで考えること」「エラー未然防止の為にチーム活動」です。

本講座を受講する前までは、私は「人間はミスをするもの」と理解していたものの「人間のミス原因のメカニズム」についての知識が乏しかった為、ミスが発生してから対策を練っていました。その為、対策が後手に周り、且つ原因を根本まで追求せず安

易な基準書ばかりを作成していたと、この講座を受講して深く認識させられました。また、ヒューマンエラーを未然に防ぐ為に、事前に発生しそうな業務を徹底的に洗い出し、起こりうるヒューマンエラーをロジックで考えることの重要さも学ばせて頂きました。

グループ演習では講座で学んだFMEAを活用し、一つの流れ業務に対していくつもの問題提起を洗い出すことが非常に難しいことだと実感したとともに、人により見る・考える視点の違いがあり、改めてチームで考えることの楽しさも実感させられました。問題を一人で抱え込むことなく、チーム全員で取り組むことにより「ヒューマンエラー」を撲滅出来る道筋が開けると思います。

この講座で学んでことを各スタッフにしっかりと落とし込み、実際の現場で活かせるようスタッフ全員でエラーが発生しそうな業務を事前に洗い出し、より良い会社作りをしていきたいと思っています。

YKK株式会社 黒部事業所
ファスニング事業本部
品質・環境センター
品質管理推進室

加藤 薫



<受講のきっかけ>

私は会社の品質管理部門で、クレームデータベース管理の仕事に携わっています。クレーム削減のためにいろいろな手を打っているにも関わらず、ここ何年かはクレームがなかなか減らず、クレームの4M分析を行うと「人」による原因が半分を占めることより、今回のセミナーでヒューマンエラーを減らすことが出来ないかと思い受講しました。

<講座の内容と自分の理解>

セミナーでは、ヒューマンエラーの特性、エラープルーフ化の原理について学び、最後にはエラー未然防止のためのチーム活動としてグループ演習を行いました。

このセミナーを受講して分かったことは、発生したひとつひとつのクレームに対策を打っていてもクレームは減らない。エラープルーフ化で潜在しているクレームを出来るだけ多く見つけ出し、それに対して対策案を出し、対策案を評価・選定・実施するこ

とでヒューマンエラーを防止するということです。

人的エラーを防ぐには作業を構成する人以外の要素である「作業方法」の改善で行う。「人間を作業方法に合うように改善することは出来ない」という言葉に私たちの立てている対策はこれで良いのだろうか?と思いました。

エラープルーフ化の仕方として業務の流れを細かく書き出し、その作業に対しエラーをリストアップするわけですが、エラーを見つけるための「エラーモード一覧表」、対策案を出すときの「エラープルーフ化チェックリスト」は便利だと思いました。このようなリストを利用してエラープルーフ化を行い、ヒューマンエラーの削減を行うことが必要と感じました。

<仕事への応用>

対策が必要なエラーを見つけるには、ヒヤリハットの提出でも良いし、エラーから対策案をたて実施するにはQCサークルで行っても良いとのことでした。私の会社では品質ヒヤリハットも実施していますし、QCサークル活動も活発ですので、その時にこの活動を入れていけばクレーム削減に結びつくはずと思いました。仕事への応用として、クレームデータの収集と分析でエラーモード一覧表を作成し製造の人に提供することでエラープルーフ化に関わっていきたいと思います。

■ISO9001内部監査員養成コース

11月6・7日(水・木)、64名が参加して、富山問屋センター流通会館で開催した。



国際規格であるISO9001は品質マネジメントシステムに関する要求事項を規定するものである。県内においても認証取得企業は多く、実施が義務付けられている内部監査の要員養成も企業にとって避けて通れないところであり、2004年

以降、ISO9000s内部監査員養成セミナーを毎年開催してきた。

講師にはMIWAMSC事務所代表の三輪昭氏を迎え、ISO9001規格のポイント、要求事項の解説など、受講生は慣れない言葉に苦戦しながら、内部監査員としての考え方、技能の習得に必死に取り組んだ。

(「参加者NOTES」16頁掲載)

■ものづくり品質管理セミナー

11月19日(火)、町野委員長はじめ78名が参加してパレプラン高志会館において開催した。

日野自動車(株)常務役員 内野直明氏から「ものづくりは人づくりから」と題して、日野自動車におけるものづくり、ひとづくり、品



質管理教育についての取り組み事例を講演いただいた。また、諏訪東京理科大学経営情報学部教授 奥原正夫氏からは「うちのは大丈夫ですから」と題して、品質保証とはお客さまに「うちのは大丈夫です」と言える根拠について講演いただいた。

両氏とも自身の経験に基づいた失敗事例や成功事例などをユニークな語り口で紹介され、終始和やかな雰囲気での講演が進んだ。

参加者NOTES

品質管理委員会



コーセル株式会社
品質管理部 五十嵐 康一

「ISO9001 内部監査員 養成コース」を受講して

西川産業株式会社
製造部 前田 純平



ISO9001では、製品やサービスの品質保証を通じて、顧客満足向上と品質マネジメントシステムの継続的な改善を実現する事を要求しています。社内での内部監査や、仕入先の監査を実施する機会が増えた事もあり、ISO9001の目的や規格の理解、及び内部監査や仕入先監査時の重要事項を取得し、社内の監査員の能力向上を推進していく事ができればと考え、当講座を受講しました。

当講座は、正しく理解するのが難しいISO9001の要求事項、規格に関して、ただ講義を聞いて理解するのではなく、グループワークに多くの時間を割く事によって、実際に社内発生するような問題事項が、ISO9001の規格要求事項のどの項目に合致するのかを討議しながら、自ら考える事によって理解を深める事が出来たと感じています。また、普段あまり接する事の無い他業種の方とも交流することができ、良い経験ができたと思います。

学んだ事を活かし、当社の品質マネジメントの継続的改善活動推進に貢献していきたいと考えています。

当講座では1日目前半はISOの成り立ちと9001規格のポイント解説、身近な出来事をISOで考えた場合どうなるかの解説、1日目の後半と2日目にはグループワークとして内部監査の模擬演習を行いました。模擬演習では品質マネジメントシステム要求事項と不適合となる例題をISO9001のどの要求事項のどの文章が不適合となるのかをグループで話し合いながら考えました。不適合例には一つの項だけでなく複数の項が不適合となる例も多く、その中からどの項が最も不適合として問題となるのかを考えることで、品質マネジメントシステムの内容についても理解を深めることができました。

今回の内部監査員養成コースを受講して、内部監査で最も大切なことは自社の品質マネジメントシステムがしっかり機能しているかを確認し、システムの改善活動につなげていくことだと学びました。今後実際に内部監査を行い、この講座で学んだことを生かしていきたいと思っています。

環境委員会

■第2回環境保全活動

10月19日(土)、6月に続き、北陸コココーラグループ「うるおいの森づくり」活動に、会員企業の環境部門を中心に16名が参加した。

当日は、南砺市利賀村の「旧オムサンタの森スキー場跡地」で、



約0.8haに広葉樹を約2,000本植樹した。参加者は山の斜面で足元が悪い中、また、硬い石や土砂に苦勞しながらも最後まで頑張った。

その後、旧レストハウスで、富

山県フォレストリーダーの指導のもと、「環境にやさしい木材を使って地球を救おう」という趣旨で、木製の日付入りペン立を作った。

(「参加者NOTES」17頁掲載)

IT・インフラ委員会

■第2回定例委員会

10月24日(木)、齊藤委員長はじめ15名の委員が出席し、富山経協・会議室において開催した。

齊藤委員長の挨拶の後、今年度の情報交換・勉強会・情報収集のテーマについて意見交換し、ITインフラの整備・運用における課



題認識を共有した。終了後は懇親会を開き、委員間の親交を深めた。

参加者NOTES

環境委員会



「ISO14001 内部環境監査員 養成コース」を受講して

株式会社 コージン
総務部 総務課 川岸 綾子

弊社の製品は、プラスチックと金属を高度に融合した技術により、パワー半導体・ハイブリッドカーを影で支える部品造りを通して、社会・地域環境に貢献しています。ISO14001に基づき構築した環境管理システムで体制、役割、環境目的・目標、運用管理、コミュニケーション等の見直しを行いつつ、継続的改善を実施しています。

私が所属している総務部は環境ISOと実業務が深く関わっていて、平成25年度からその事務局の担当者となったことから、受講する機会を頂きました。

講座内容は、講義とグループワークが主となり、隣同士での演習や写真を用いて全員で検証しました。人によって見る視点や考え方、対策の取り方一つにしても様々な意見がありました。内部監査員として必要以上に厳しくしたり、また甘い対応でも良くない事を改めて感じました。そして、監査員としての目をこれからも養っていかなくてはならないと実感しました。

また、監査のときは表面上書類ではなく、実際に現場へ行く事の重要性も学ぶことが出来ました。

「ISOは業務改善だ」と言われたことも印象深いです。例えば設備を交換するのは安易な事で、今ある



立山科学工業株式会社
立山科学グループ CSR推進室
手林 直美

当社はグループ全体で環境保全活動を推進しており、私はその一員として改善活動に取り組んでいます。本講座は、講義とグループワークを中心に構成されており、講義では、具体的な事例や経験談なども交えながら規格や法規制の概要を解説していただいたので、イメージしやすく理解を深めることができました。グループワークでは、フローダイアグラムやチェックリストの作成、与えられた審査状況を例に判定するなど内部監査に必要な手法を学び、他の受講者と意見を交わしながら進めるため異なる視点や考え方も大変参考になりました。

「継続的改善はかけた時間と比例しないこと。一度上げたものは下げないようにすること。既存のパフォーマンスレベルを維持すること」という言葉が印象に残っています。今講座で学んだことを活かし、今後内部環境監査員として経験を積みながら当社の環境保全活動の推進に貢献していきたいと思えます。

設備を使ってどう業務改善出来るかが重要だという事。今取り組んでいる事を正しいと思わず、常に改善していく意識を持ち、日々の業務とリンクさせ、会社の環境活動に活かすよう取り組んでいきます。



表紙の花 ポインセチア

12月に入ると赤と緑のクリスマスカラーに彩られたポインセチアの鉢植えが園芸店に並びます。鮮やかな赤い花びらに見える部分は苞葉（ほうよう）といって葉が変形したもので、その証拠に、よく見ると葉と同じような葉脈が走っています。本物の花は真ん中の黄色い部分にあります。花弁はなく、小さく粒状で目立ちません。

原産地はメキシコなど中央アメリカの熱帯で、本来は高さ3～5mになる常緑の低木です。園芸的には挿し木で小さく仕立て、短日処理によって花を誘導し、苞葉を赤くして出荷しています。クリスマス頃に出回るため寒さに強いと思われませんが、もともと熱帯の植物であるため耐寒性は低く、最低10℃を切らないように注意する必要があります。冬は室内の暖かい、明るい所に置き、水やりを控えてやや乾き気味にして越冬させます。うま

く越冬できたら、4月頃に半分位まで切り戻して新芽を出させます。

ポインセチアが所属するトウダイグサ科は有毒な植物が多く、ハツユキソウ（初雪草）や多肉植物のアオサンゴ（ミルクブッシュ）などでは、葉や茎を傷つけた時に出る白い乳液で皮膚がかぶれたり、水泡ができたりします。ポインセチアの乳液にも強い毒性があると書かれたものを見かけますが、実際には肌の敏感な人がアレルギーを起こす程度で、強い毒性はないとされています。

最近ではアメリカやヨーロッパでの改良が進み、一般的な赤い苞葉の他に、白や黄色、マーブル模様や斑入り、苞葉がカールしたり縮れたりしたものなど、多様な園芸品種が出回っています。

（富山県中央植物園 中田政司）

ポインセチアの園芸品種▶



人材の確保・従業員の再就職をお手伝い！

事業の拡大・欠員補充等による
人員確保を行いたいとき

事業の整理・縮小等に伴い、
人員削減せざるを得ないとき

そんなとき、まっ先にご相談ください。



公益財団法人

since 1987

出向・移籍（転籍）の専門機関

産業雇用安定センター

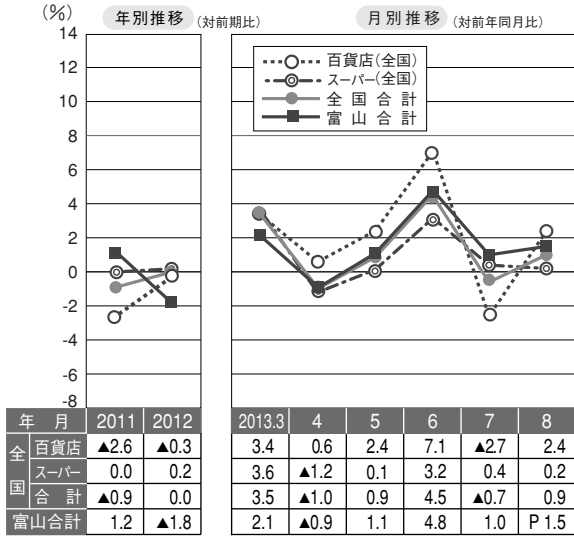
〒930-0857 富山市奥田新町8-1 ボルファートとやま10F TEL 076-442-6900

ご利用時間／9：00～17：00（土・日・祝日は休み） FAX 076-439-2860

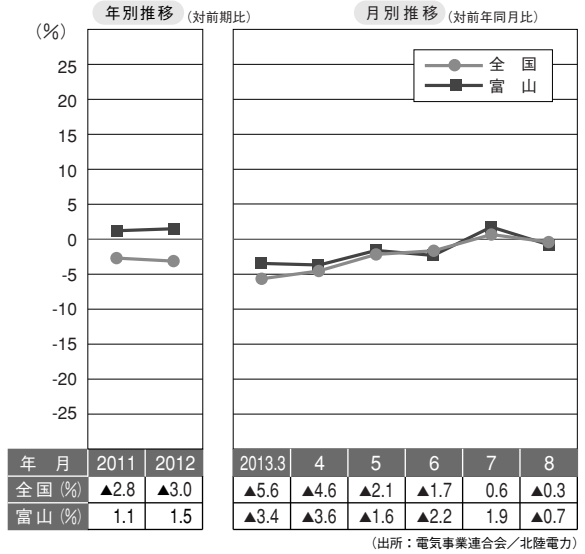
インターネットで最新の人材情報をどうぞ <http://www.sangyokoyo.or.jp/>

景況指標

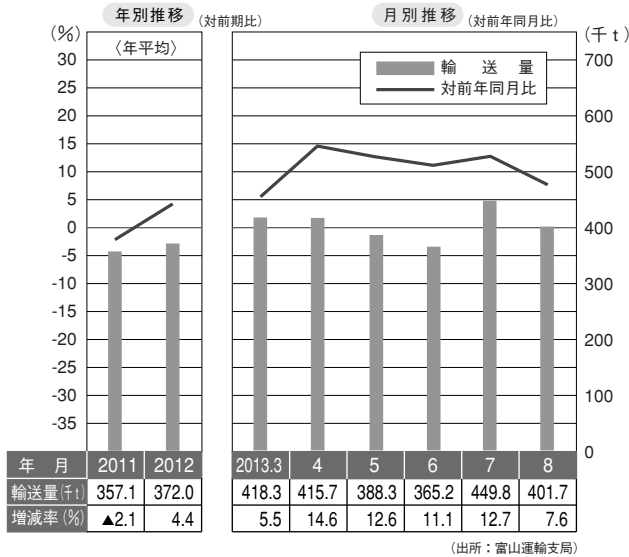
■百貨店・主要スーパーの売上高



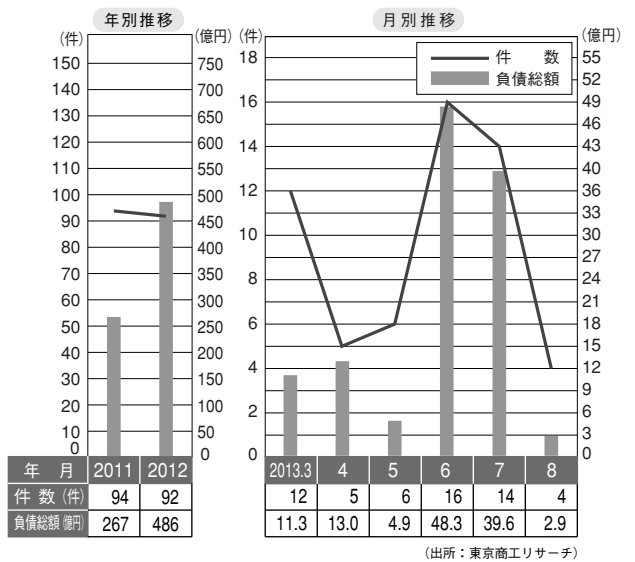
■大口電力消費量 (製造業計)



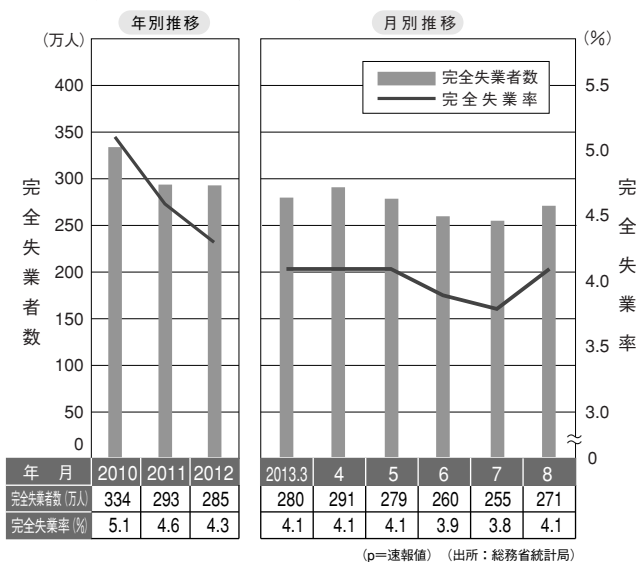
■一般貨物自動車輸送量 (富山県内)



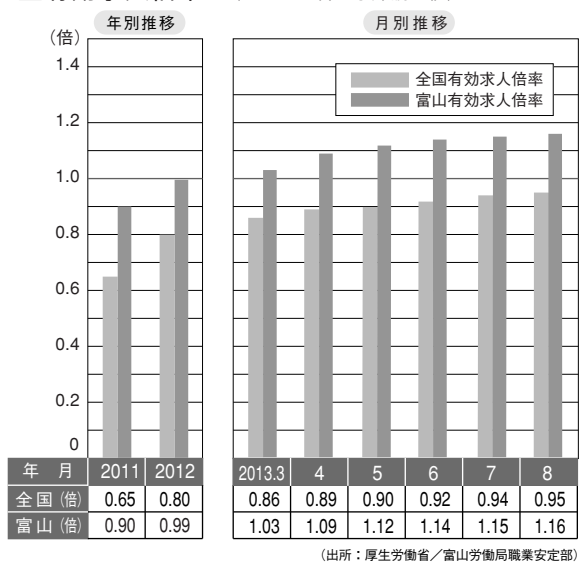
■企業倒産 (富山県内) (件数と負債総額)



■完全失業者数及び完全失業率 (季節調整値)



■有効求人倍率 (パートを含む季節調整値)



2014 新春互礼会

日 時：2014年1月6日（月）16:00～17:30

場 所：富山第一ホテル 3階「天平の間」
（富山市桜木町10-10 TEL. 076-442-4111）

県内4経済団体合同で開催します。

- ・(一社)富山県経営者協会
 - ・富山県商工会連合会
 - ・富山県商工会議所連合会
 - ・富山県中小企業団体中央会
- （ご案内済）

2014年 労使交渉セミナー

～労使交渉に対する
経営側の基本姿勢～

日 時：2014年1月30日（木）13:30～15:30
場 所：富山商工会議所ビル9階 99会議室

講 師：(一社)日本経済団体連合会
労働法制本部 主幹 坂下 多身 氏

受講料：会員 4,000円／会員外 10,000円
定 員：30名（先着順）

人事・労務政策委員会

2014年 新入社員 講習会

～企業人としての
心構え・態度の確立と仕事の進め方～

日 時：2014年4月2日（水）9:30～16:30
場 所：富山県市町村会館 2階ホール

講 師：(株)ユニオンランチ代表取締役社長 遊道 義則 氏
(株)インテック秘書室長 稲田 恵子 氏
前富山県警山岳警備隊長 梶田 正 氏
マネジメント・アドバイザー 松田 勝明 氏

受講料：会員 7,000円／会員外 14,000円
定 員：150名（先着順）

教育委員会

事業予定

2013年12月16日～2014年2月20日

詳しくはホームページ (<http://www.toyama-keikyo.jp/>)
「講座・セミナー案内」をご覧ください。

	開催日	時間	事業名	委員会名	場所	備考
会 議	12月19日(木)	16:30～17:30	総務交流委員会「定例委員会」	総務交流	富山電気ビル	
	12月19日(木)	16:00～17:30	人事・労務政策委員会「定例委員会」	人事・労務政策	富山電気ビル	
	12月20日(金)	16:30～17:30	教育委員会「定例委員会」	教 育	富山経協・研修室	
	12月20日(金)	16:00～17:30	IT・インフラ委員会「定例委員会」	IT・インフラ	富山電気ビル	
	1月6日(月)	16:00～17:30	新春互礼会		富山第一ホテル	上記「おしらせ」参照
講 座 ・ セ ミ ナ ー	1月16日(木)	9:00～17:00	管理職マネジメント研修	教 育	富山県農業総合研修所	
	1月22・29日(水) 2月5・19日(水)	9:00～17:00	品質管理入門講座<応用編>	品質管理	富山経協・研修室	
	1月30日(木)	13:30～15:30	2014年労使交渉セミナー	人事・労務政策	富山商工会議所ビル	上記「おしらせ」参照
	2月18日(火)、19日(水)	9:30～16:30	係長・主任実践コース	教 育	富山県市町村会館	

「富山経協」vol.809

2013年（平成25年）12月号
2013年12月15日発行（隔月発行）

一般社団法人 富山県経営者協会

〒930-0083 富山市総曲輪2丁目1番3号（富山商工会議所ビル 別館5階）
TEL (076) 421-9588 FAX (076) 421-9952

ホームページ <http://www.toyama-keikyo.jp/>
Eメール info@toyama-keikyo.jp